

井川町人口ビジョンの概要

I 人口の現状分析

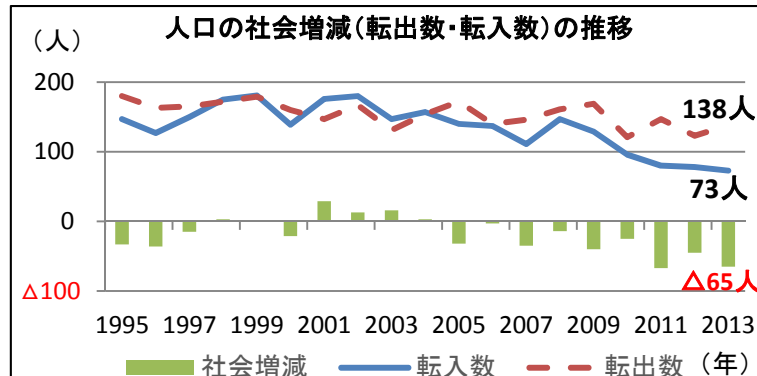
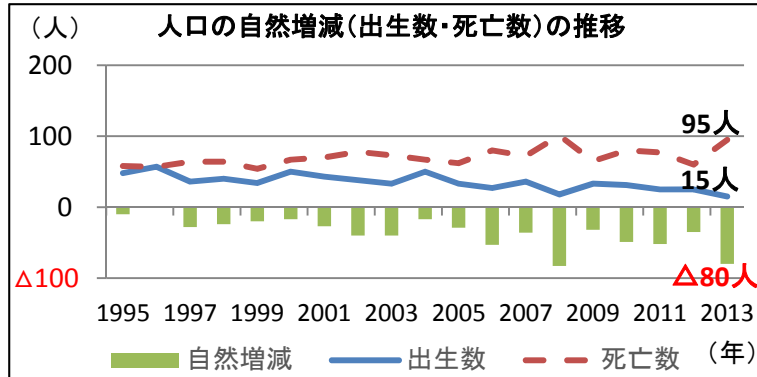
1 人口動向

(1) 時系列による動向

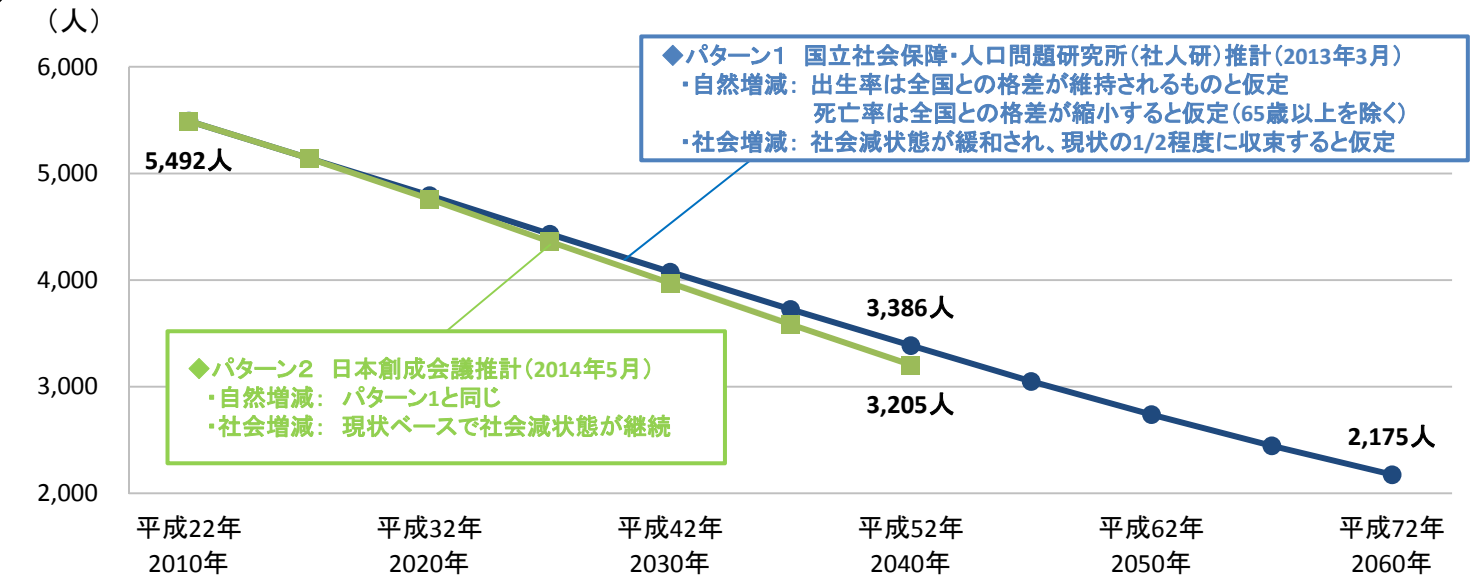
- 総人口
 - ・ 観測期間の1965年以降、減少傾向が継続し、直近の2014年は5,088人、2015年以降でも減少の見込み
- 年齢3区分別人口
 - ・ 年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)ともに1975年以降では減少
 - ・ 老年人口(65歳以上)は2020年まで増加、それ以降は減少の見込み
- 自然増減
 - ・ 出生数の減少と死亡数の増加が同時に進行していることから、「自然減」が拡大
- 社会増減
 - ・ 過去には転入・転出者数が均衡していたものの、近年では転入者数が減少傾向にあることから「社会減」が拡大

(2) 人口動向分析

- 年齢階層別分析
 - ・ 男女とも「15~19歳」の年齢階層で大幅に転出超過
- 町内定着率
 - ・ 2010年には男女とも66%台後半と比較的高い水準を維持



2 将来人口の推計



- 人口推計
 - ・ 社人研推計(パターン1)をベースとした2040年の人口は3,386人
 - ・ 一方、社人研推計より厳しい推計方法(日本創成会議:パターン2)では、2040年の推計人口は3,205人

- 自然増減・社会増減の影響度
 - ・ 将来人口に対する自然増減と社会増減の影響の大きさを分析
 →「自然」要因と「社会」要因の影響度は同程度であり、双方の要因から受ける影響も県内の他市町村と同程度

II 人口の将来展望

1 目指すべき将来の方向

(1) 現状と課題

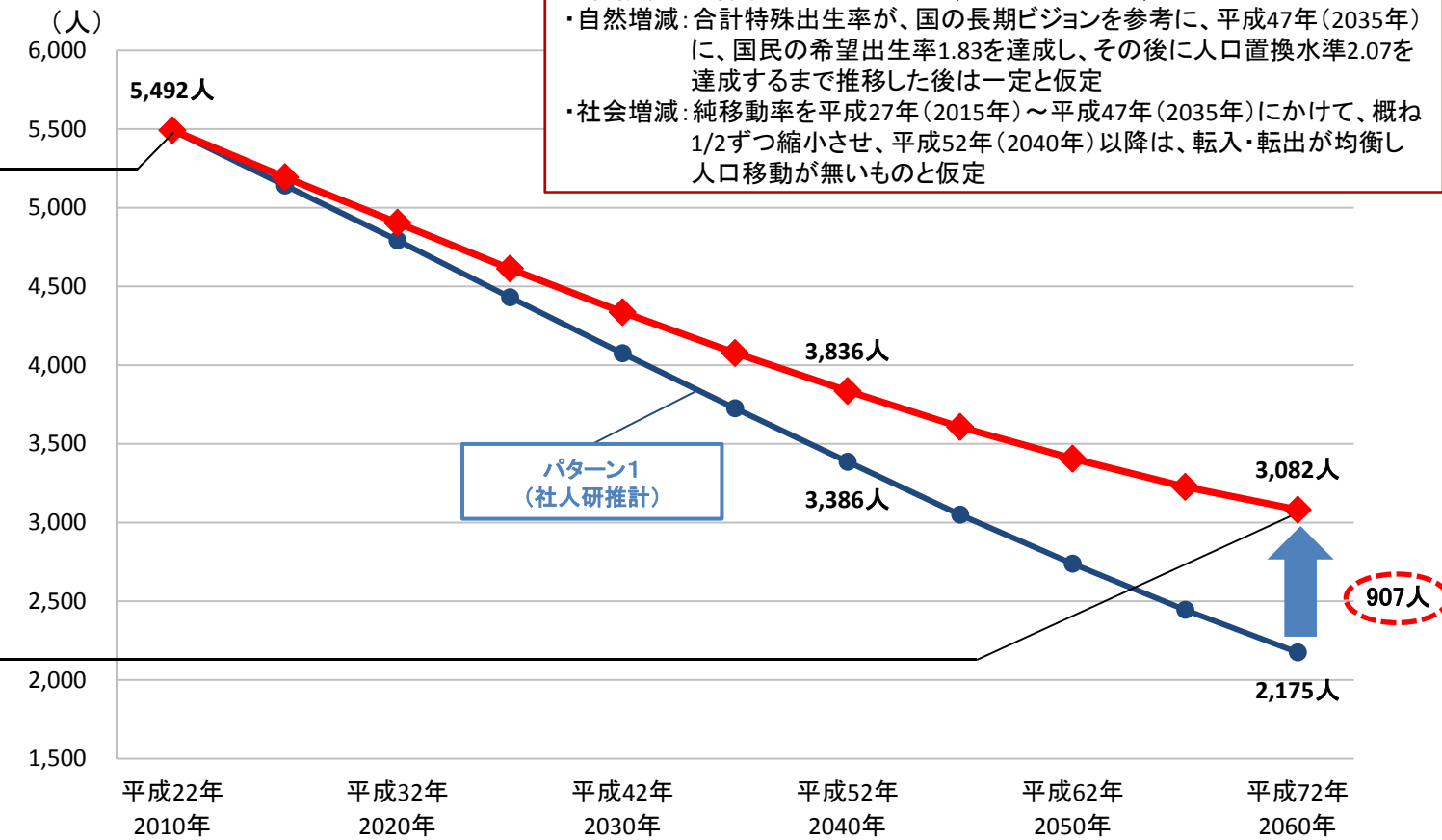
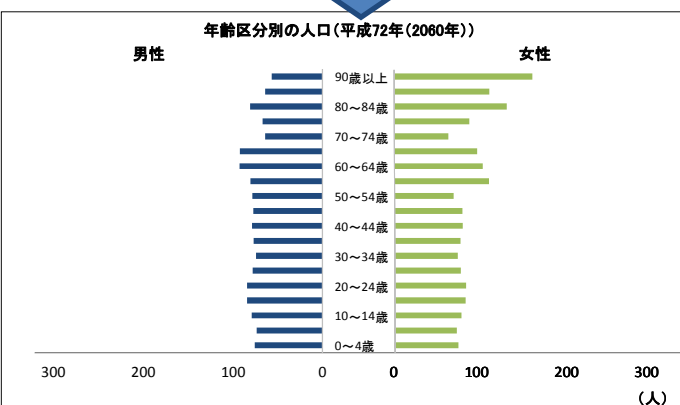
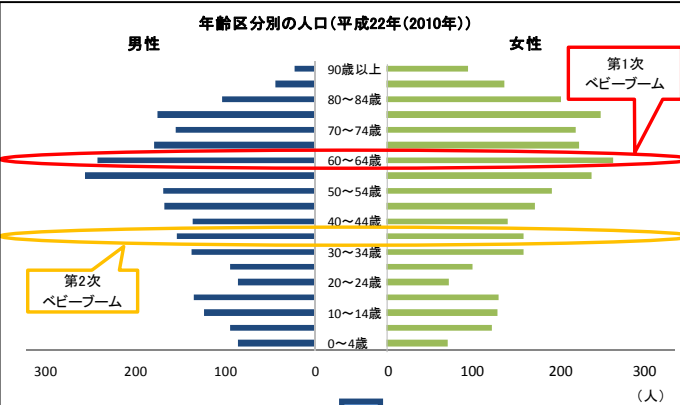
- 拡大する「自然減」
 - ・ 若年層の減少・流出に伴う出生率の低下
 - ・ 超高齢社会の進展による死亡数の増加
- 持続する「社会減」
 - ・ 進学や就職を機に若年層が町外へ転出
- 雇用の集中と高齢化
 - ・ 全国平均と比較すると、「農業」「複合サービス」に集中
 - ・ 「農業」の従業者が高齢化しており、約9割が50歳以上
 - ・ 一方、「医療・福祉」では若年・壮年層の雇用を吸収

(2) 目指すべき将来の方向性

- 社会減の抑制
 - ・ 男女ともに町内定着率を改善するため、雇用を確保
 - ・ 高校・大学進学を機に、流出した層のUターンを促進
- 自然減の抑制
 - ・ 出生率の改善のため、出産や子育て支援の充実
- 未来へ継承する地域づくり
 - ・ 人口の転出抑制を図りつつ、高齢化の進む産業における人口構造の若返りを図る施策が必要

2 人口の将来展望

目指すべき将来人口の基での人口ピラミッド



※合計特殊出生率 一定の期間(1年間)の出生状況に着目し、その年における各年齢(15~49歳)の女性の出生率を合計したもの。 ※人口置換水準: 人口が長期的に増減せず維持される合計特殊出生率の水準。現在の日本では2.07。

現状分析から将来を展望